

## シンポジウム

15:15-17:00

= イマドキのキャンプ =

昨年「おうちキャンプ」という言葉が流行したように「キャンプ」の形は多様化しています。日本キャンプ協会はこれまで、主に参加者の教育を目的とした「組織キャンプ」を中心に推進してきましたが、多様化する「キャンプ」に焦点を当て、理解を深めることで、さらに進化できるのではないかと考えています。

そこで、本シンポジウムでは多様な形で「キャンプ」に関わる方々に、イマドキなキャンプ事情をご紹介します。そして、多様な視点から見た「キャンプ」の「今」についての議論を通じて、それぞれのこれからの「キャンプ」の可能性について考える機会としたいと思います。

シンポジスト：根本 昌幸（コールマンジャパン株式会社 マーケティング・ディレクター）

1992年にコールマンに入社して以降、製品開発から広告/PR・プロモーションまであらゆるマーケティングやブランディングに携わり、コールマン・ブランドの成長を支える。

趣味はキャンプとバイク。日本各地のキャンプ場を1200ccの愛車と共に巡り、そのキャンプ数は年間40泊にもおよぶ。最近は1級小型船舶免許も取得し、釣りにも挑戦中。



～シンポジウムにおいてメッセージ～

「コールマンが見た日本キャンプ市場の変遷と今」

コールマンジャパンが日本での成長過程を商品展開の変遷をベースに検証し、コールマンが考える現在のキャンプ市場の特徴をご紹介します。

シンポジスト：竹川 将樹（株式会社ふもとつばら 代表取締役）

大学卒業後、家業を継ぎ自伐林家となる。2006年「株式会社ふもとつばら」を設立。2011年農林水産祭天皇杯受賞。造林・木材生産からキャンプ場・体験プログラムまで、受け継いだ森林資源を生かすとともに、地元地域とも連携し、山村地域の活性化にも従事。



～シンポジウムにおいてメッセージ～

キャンプ利用者の裾野が広がると共に増加する、自然にも不慣れなキャンプ初心者に対する「学び」の重要性をお話します。

## シンポジスト：寺中 祥吾（軽井沢風越学園 副校長）

筑波大学大学院で野外運動を専攻。株式会社プロジェクトアドベンチャーに  
入社し指導者養成や企業・学校団体の教育研修に取り組む。流通経済  
大学助教を経て、開校と同時に軽井沢風越学園に参画。



### ～シンポジウムにおけるメッセージ～

2020年4月に開校した軽井沢風越学園は、幼稚園と義務教育学校  
(小学校+中学校)からなる12年間の「混在校」です。2021年度から、  
体育と重なる形で「アドベンチャー」というカリキュラムを始めました。  
このカリキュラムをはじめたきっかけや、ここでの「キャンプ」が学校での学びとどう繋がるか、など  
について話せたらと思います。

## シンポジスト：青木達也・江梨子（キャンプ民泊 NONIWA オーナー）



2019年に日本初となるキャンプと民泊を組み合わせた『キャンプ民泊  
NONIWA』を開業。【野あそび夫婦】というユニット名でアウトドア雑誌の監修  
やキャンプ講習などもおこなう。他、キャンプ場のコンサルティング、商品開  
発など幅広く活動。

### ～シンポジウムにおけるメッセージ～

キャンプ民泊 NONIWA では、これまで300組以上のキャンプデビューをお手  
伝いしてきました。そのなかで“イマドキ”と感じる『参加者の多様性』と『ロ  
ーカル×キャンプの可能性』についてお話したいと思います。

## コーディネーター：佐藤冬果（東京家政学院大学 児童学科 助教）

小学2年生から毎年参加した組織キャンプでキャンプカウンセラーに憧れをもち、キャンプの道へ。  
筑波大学大学院で野外教育を学び、修士、博士を取得したのち、2021年度より東京家政学院大学に着任。  
野外教育関連授業や大学近隣の幼児を対象にした「森のようちえん」の運営を担当している。

### ～シンポジウムにおけるメッセージ～

コロナ禍と言われるようになり、「キャンプ」の語をニュースで耳にする機会が増えたように思います。  
その内容は多様で、新しく知る「キャンプ」事情も多くありました。そのような中迎えた55周年の今回  
は、多様なお立場で「キャンプ」に関わる方々がシンポジストとしてお集まりくださりました。イマドキ  
と感じるキャンプの実際について情報提供頂くとともに、「キャンプ」の語を囲んだ語りを通して、その  
場に集まるそれぞれにとっての「キャンプ」のこれからについて想いを巡らせる場になればと思います。

